II Kings 10:32, 11:1-21, 12:1-20

イスラエル、アラムのハザエルによって打ち破られる

(II 列王記10：32)「そのころ、【主】はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。ハザエルがイスラエルの全領土を打ち破ったのである。」

ここでは何が起こっているのでしょう？北王国は、捕囚に行く準備をしています。このときから、最終的に惨事に終わる衰退が起こります。彼らはアッシリヤによって捕囚にされてしまうのです。

10章はイスラエルで28年間王だったエフーの死をもって閉じます。

11章、12章

テーマ: 少年王、ヨアシュ

アハブとイゼベルの物語は美しい箇所ではありません。きっとその箇所はもう終わったと思っていらっしゃることでしょうが、そうではありません。エフーがイスラエルの北王国でアハブの系図に属するものをすべて抹殺したのは本当ですが、アハブとイゼベルの娘が南王国に嫁いできて、このときには王母でした。確かに彼女はママとパパの血をひいており、彼らの中でも一番意地が悪かったのでした。彼女の名はアタルヤといい、彼女はこれから、信じられないようなとんでもないことをします。

アタルヤ、孫たちを殺害する

(II 列王記11：1)「アハズヤの母アタルヤは、自分の子が死んだと知ると、ただちに王の一族をことごとく滅ぼした。」

アハズヤが生きている限りは、彼女が女王でした。なぜなら、彼女が自分の息子をコントロールしていたからです。彼女はほとんどイゼベルのようでした。今アハズヤが死に、孫のひとりが王座につくことでしょう。アタルヤはそれを望みませんでした。彼女は自分がその孫をコントロールできないのではないか、そして自分の地位を失うのではないかと恐れました。そこで、彼女は何をしたのでしょう？彼女は、自分が手を下すことのできるすべてのダビデの家系の者たちを殺害しました。何と血に飢えた行為でしょう！彼女はダビデの系図を絶やそうとしたのです。これは、いずれ主イエス・キリストにつながる家系を滅ぼそうとする、サタンの再度の試みでした。サタンは、ダビデの家系を根絶やしにして、救い主が生まれないようにしようとしたのです。

歴史の流れのなかで、悪魔は何度かユダヤ人たちを抹殺しようとしました。エジプトでは、主がモーセを保たれたので、ユダヤ人たちが殺されることなく、返ってエジプトを去ることができました。エステル記の中で、ハマンがユダヤ人を抹殺しようとしましたが、失敗しました。これらひとつひとつのことの背後に、サタンがいました。今ここで、アタルヤという女がダビデの家系を抹消しようとしています。

彼女は全部を殺したと思っていましたが、ここに語られているように、彼女はひとりを殺しそこないました。

(II 列王記11：2－3)「しかし、ヨラム王の娘で、アハズヤの姉妹のエホシェバが、殺される王の子たちの中から、アハズヤの子ヨアシュを盗み出し、彼とそのうばとを寝具をしまう小部屋に入れて、彼をアタルヤから隠した。それで、彼は殺されなかった。こうして、彼はうばとともに、【主】の宮に六年間、身を隠していた。その間、アタルヤがこの国の王であった。」

彼女は自分の息子が殺されたあと、何年も自分ひとりで支配しました。彼女が望んでいたとおりです。でも、その間に少年ヨアシュは成長していました。

ヨアシュが、ユダの王位につく

(II 列王記11：4)「その第七年目に、エホヤダは使いを遣わして、カリ人、近衛兵の百人隊の長たちを【主】の宮の自分のもとに連れて来させ、彼らと契約を結び、【主】の宮で彼らに誓いを立てさせ、彼らに王の子を見せた。」

ヨアシュが約7歳のとき、エホヤダは近衛兵の百人隊の長たちを呼び寄せました。(訳注：英語の聖書本文では the rulers over hundreds, with the captains and the guard となっているので、マギー博士は「百人隊の支配者たち、隊長たち、近衛兵を」呼び寄せたと書いています。)エホヤダは、彼らに王の子を見せ

ました。ダビデの家系の息子が残されていたことが分かったとき、そのことは彼らの心に励ましと喜びと希望とをもたらしました。彼らはいずれにしても、もうこの女アタルヤにはうんざりしていましたから、彼女を王位から引き降ろすためにこのチャンスにとびつきました。

（II 列王記11：5－7）「それから、彼は命じて言った。『あなたがたのなすべきことはこうです。あなたがたのうちの三分の一は、安息日に勤務して王宮の護衛の任務につく者となる。三分の一はスルの門におり、他の三分の一は近衛兵舎の裏の門にいる。あなたがたは交互に王宮の護衛の任務につく。あなたがたのうち二組は、みな、安息日に勤務しない者であるが、【主】の宮で王の護衛の任務につかなければならない。』」
彼らは「ひとりひとり武器を手にして、王の回りに立つ」ようにしなければなりませんでした。この小さな王のいのちを守ることに、特に注意を払わなければなりませんでした。なぜなら、もしもアタルヤが彼に手を下すことができたなら、彼のいのちはニッケル（訳注：5 セント。ほとんど価値がない、という意味）ほどの価値もなくなってしまっていたでしょうから。ヨアシュは自分の孫であると言うのに、彼女は何の良心の咎めもなく、彼を殺していたことでしょう！この女は、イゼベルと同じように、冷酷でした。ですから、この少年は人々の前に連れて出られるまで、大切に守られていました。

（II 列王記11：11－12）「近衛兵たちは、ひとりひとり武器を手にして、神殿の右側から神殿の左側まで、祭壇と神殿に向かって王の回りに立った。こうしてエホヤダは、王の子を連れ出し、彼に王冠をかぶらせ、さとしの書を渡した。彼らは彼を王と宣言した。そして、彼に油をそそぎ、手をたたいて、『王さま。ばんざい』と叫んだ。」
ダビデの家系の王が王冠をかぶらされたこの日は、南王国にとってすばらしい日でした。それまで南王国ではしばらくの間、とても落胆するようなことが続いていました。

アタルヤ、殺される

（II 列王記11：130「アタルヤは近衛兵と民の声を聞いて、【主】の宮の民のところに行った。」
もちろんアタルヤは王の即位式には招かれていませんでした。彼女は明らかに、宮のすぐ上に位置しているシオン山のダビデの宮殿にいました。宮のあたりのわいわい言う騒ぎと物音を聞いたとき、彼女は何が起こっているのかを見るためにそこに行きました。

（II 列王記11：14）「見ると、なんと、王が定めのとおりに、柱のそばに立っていた。王のかたわらに、隊長たちやラッパ手たちがいた。一般の人々がみな喜んでラッパを吹き鳴らしていた。アタルヤは自分の衣服を引き裂き、『謀反だ。謀反だ』と叫んだ。」
もちろんこれは、アタルヤにとっての謀反でした。

（II 列王記11：15－16）「すると、祭司エホヤダは、部隊をゆだねられた百人隊の長たちに命じて言った。『この女を列の間から連れ出せ。この女に従って来る者は剣で殺せ。』祭司が『この女は【主】の宮で殺されてはならない』と言ったからである。彼らは彼女を取り押さえた。彼女が馬の出入口を通って、王宮に着くと、彼女はそこで殺された。」
アタルヤは逃げようとしました。彼女が公平な裁判を受けようとしてほかの地域にその裁判を移動するなどということは、全く望めませんでした。彼らは彼女が逃げようとするところをすぐ処刑しました。彼女が最高裁に上告する手間を省いたのです。彼らは彼女を片付けました。それはこのときになすべき、適切なことだったと私は思います。

リバイバル

アタルヤを取り除いたことで、南王国の黒雲は取り去られました。新しい王が立てられたのです。ただし、この少年には、彼の代わりに統治する相談役たちが必要でした。なぜなら、彼はあまりにも若かったからです。その相談役のひとりは、ヨアシュを王座につけ、アタルヤを処刑したエホヤダでした。

（II 列王記11：17）「エホヤダは、【主】と王と民との間で、【主】の民となるという契約を結び、王と民との間でも契約を結んだ。」
これが神さまに立ち返る始めです。祭司エホヤダは今、エホバ礼拝に戻る動きを指導しています。バアル礼拝が行き渡っていました。バアル礼拝はユダにさえもしみこんでいました。おそらく人々はそのときも主の宮には行っていたことでしょうが、彼らは同時にバアルを礼拝していました。

今日も同じことが起こっています。多くの人々が日曜日には宗教的になりますが、週のほかの日には悪魔のために生きています。今日そのようなことをしている多くの教会メンバーがいます。それでいて彼らは、どうして教会が死んでいるのかといぶかるのです！教会の建物の中にはその理由の説明はありません。人々の中にあるのです。今現在、人々の中に死があるので、教会が死んでいるのです。

（II 列王記22：18）「一般の人々はみなバアルの宮に行って、それを取りこわし、その祭壇とその像を徹底的に打ち砕き、バアルの祭司マタンを祭壇の前で殺した。祭司エホヤダは、【主】の宮の管理を定めた。」
これが、リバイバルの偉大な霊的動きの始まりです。

（II 列王記11：19－21）「彼は百人隊の長たち、カリ人、近衛兵たちとすべての一般の人々を率いた。彼らは王を【主】の宮から連れ下り、近衛兵の門を通って、王宮に入った。彼は王を王座に着けた。一般の人々はみな喜び、この町は平穏であった。彼らはアタルヤを王宮で剣にかけて殺したからである。ヨアシュは七歳で王となった。」
この日は、何と喜ばしい日だったことでしょう。ダビデの子孫が王座に着き、邪悪で不当な外国の強奪者と彼女のバアルの宮がこの地からなくなったのです！

ヨアシュの統治

12 章には、ヨアシュの統治が書かれています。また私たちは、それを監督している大祭司エホヤダを見て行きます。これは、私がリバイバルと呼ぶ、偉大な霊的な動きの始まりです。

この時点で、私は王たちの点呼を取りたいと思います。北王国イスラエルを支配した王たちは 19 人いました。南王国ユダを支配したのは 20 人の王たちでした。イスラエルを支配した 19 人の王たちのうちには、ひとりも良い王とされる者はいませんでした。実際彼らについて言えることは、全員が“悪い”王だったということだけです。全体の中に、ひとりとして良い王はいませんでした。

南王国ユダには 20 人の王たちがいましたが、そのうちの 10 人だけが良い王と考えられるでしょう。5 人の王は特別で、彼らの統治の間に五つの期間の改革とリバイバルがありました。すべての改革と祝福は、霊的なリバイバルという巣の中で羽化しました。ほかのときには消し去られてしまった祭壇の火が、これらの短い休息の期間に燃やし続けられました。5 回のリバイバルの火が、燃え上がり、国中をなめ尽くしました。滅ぼす火ではなく、建てあげ、指導する火です。神さまは天から送られた生き返りのときをもってご自分の民を訪れられました。人々は神さまのみことばに立ち返り、神さまを礼拝することに戻りました。力と繁栄がありました。

リバイバルが来るとき、教会には新しい喜びが起こります。新たにされた力が与えられます。新しい愛が起こります。でも、まず最初に、聖書に戻らなければなりません。神さまのみことばに立ち戻ることが、すべての偉大な霊的リバイバルをもたらして来ました。私は、今日私たちが本当のリバイバルを持つことができると、個人的に信じています。

何年も前にグリフィス・トーマス博士（William Henry Griffith Thomas ：1861–1924。英国国教会の牧師で英国ウェールズの国境地域出身の学者。ウィキペディアより）が言いました。
「聖書の中で、本当の教会のリバイバルが神さまのみこころに反している箇所を見つけることはできない。」

R・A・トーリー博士（R. A. Torrey (1856-1928)アメリカの伝道者、牧師、教育者で著作家。D・L・ムーディーに招かれてシカゴの聖書学校（現ムーディー・バイブル・インスティトゥート）の学長となった。クリスチャン・バイオグラフィー・リソーセス www.wholesomewords.org/biography より）も言いました。
「聖書の中には、リバイバルが神さまのみこころに反している、という教えはどこにも書かれていない。」

ジェイムズ・M・グレイ博士（James M. Gray 1851-1935 アメリカの聖書学者、学校理事、編集者、説教者で詩人。www.believersweb.org より）はこう言いました。
「聖書の書簡の中には、初代教会の経験が今日繰り返されることはない、という結論を裏付けることは何も書かれていない。」
さあ、私たちの時代に神さまが本当の恵みのお働きをなさることができるように、私たちも神さまのみことばを伝えるという自分の分を果たそうではありませんか。
12 章では、ヨアシュは大人になっています。

（II 列王記12：1）「ヨアシュはエフーの第七年に王となり、エルサレムで四十年間、王であった。彼の母の名はツィブヤといい、ベエル・シェバの出であった。」
ヨアシュは 7 歳の子どものときに統治を始め、47 歳になるまで統治を続けました。彼の母は、ベエル・シェバの出のツィブヤでした。どのようにたびたび母親の名前が書かれているかを覚えて置いてください。なぜなら、母親は自分の息子にとても大きな影響力をもっているからです。

（II 列王記12：2）「ヨアシュは、祭司エホヤダが彼を教えた間はいつも、【主】の目にかなうことを行った。」
ヨアシュは神さまのみことばを教えられました。私たちに今日必要なのは、永遠にお得意の妙案を考え出し、“自分”だけが答えを持っていると考えて自分以外のすべての政党や政治家を批判する、頭の空っぽな政治家ではありません。あえて言いますが、私たちに今日必要なのは、神さまのみことばによって教えられ、神さまを“知っている”人物です。この地には霊的な更新が必要です。霊的な更新は、神さまのみことばによってのみ与えられるのです。

（II 列王記12：3）「ただし、高き所は取り除かなかった。民はなおも、その高き所でいけにえをささげたり、香をたいたりしていた。」
「リバイバル」はすべての人が神さまに立ち返ったことを意味しません。多くの人々がまだ、高き所でいけにえをささげたり、香をたいたりしていました。祭司たちの中にさえも、復興（revive リバイブ）されていない者もいました。

（II 列王記12：4－5）「ヨアシュは祭司たちに言った。『【主】の宮にささげられる聖別されたすべての金、すなわち、各人に割り当てを課せられた金や、自発的に【主】の宮にささげられるすべての金は、祭司たちが、めいめい自分の担当する者から受け取り、宮のどこかが破損していれば、その破損の修理にそれを当てなければならない。』」
宮は荒廃していました。修理が必要でした。祭司たちは宮の破れを修理するために使われるべきお金を取って、ほかのことに使っていました。

（II 列王記12：6－8）「しかし、ヨアシュ王の第二十三年になっても、祭司たちは宮の破損を修理しなかった。それでヨアシュ王は、祭司エホヤダと、祭司たちを呼んで彼らに言った。『なぜ、宮の破損を修理しないのか。もう、あなたがたは、自分の担当する者たちから金を受け取ってはならない。宮の破損に、それを当てなければならないから。』祭司たちは、民から金を受け取らないことと、宮の破損の修理の責任を持たないことに同意した。」
今日も同じことです。とても率直に言って、クリスチャンと教会とがどのようにお金を使うか、または乱用するかで、彼らをテストすることができると私は思っています。教会では多くの人たちが言います。
「誰々さんを会計係か執事にしましょう。彼は優れたビジネスマンだから。」
それよりも、その人が霊的な人物かどうかを知らなければならないと申し上げて置きましょう。それが大切なことなのです。
さて、彼らはどうしたのでしょう？鍵のかかる箱を用意して、お金が安全なように、祭司たちが勝手にそれを取ることがないようにしたのです。

（II 列王記12：9）「祭司エホヤダは、一つの箱を取り、そのふたに穴をあけ、それを祭壇のわき、【主】の宮の入口の右側に置いた。入口を守る祭司たちは、【主】の宮に納められる金をみな、そこに置いた。」
この箱は良いアイデアだったと思います。誰でも数字を上手くごまかして変えることができます。私は、お金を扱う役員たちがただそのようにするのを見てきました。全く不名誉なことです。“「ヨアシュの金庫（Joash's chest）」は、今日も多くの組織で基金を集めるために使われています。私はときどき、「ヨアシュの金庫」を使う人たちがその背景を知っているのかなあ、と思います。金庫は、執事や説教者やそのほか宗教的な金儲けをする人たちがささげものに手を出すことができないように、保護されます。これは、私たちもときどき使いたい良いアイデアです。

宮の宝物を与えてハザエルの脅威をやめさせる

この地には偉大な霊的動きがありましたが、国は衰退し始めていました。
（II 列王記12：17－18）「そのとき、アラムの王ハザエルが上って来てガテを攻め、これを取った。それから、ハザエルはエルサレムを目ざして攻め上った。それでユダの王ヨアシュは、自分の先祖であるユダの王ヨシャパテ、ヨラム、アハズヤが聖別してささげたすべての物、および自分自身が聖別してささげた物、【主】の宮と王宮との宝物倉にあるすべての金を取って、アラムの王ハザエルに送ったので、ハザエルはエルサレムから去って行った。」
ことばを換えれば、ヨアシュは時間をかせいでいたのです。彼はアラムの王、ハザエルを買収しようとしました。

（II 列王記12：19－20）「ヨアシュのその他の業績、彼の行ったすべての事、それはユダの王たちの年代記の書にしるされているではないか。ヨアシュの家来たちは立ち上がって謀反を起こし、シラに下って行くヨアシュをミロの家で打ち殺した。」
　I と II 歴代誌に到達したときに、もっとリバイバルについて話します。ヨアシュが死んだとき、彼はわずか 47 歳でした。彼の家来たちがヨアシュを殺しました。ヨアシュは先祖たちとともにダビデの町に葬られました。ヨアシュは良い王でした。彼の息子アマツヤも良い王であったことをこれから見ていきます。

CHRONOLOGICAL TABLE OF THE KINGS OF THE DIVIDED KINGDOM

JUDAH					ISRAEL				
	King	Reign		Character	Prophet	King	Reign		Character	Prophet
1.	Rehoboam	931–913 B.C.	17 yrs.	Bad	Shemaiah	1. Jeroboam I	931–910 B.C.	22 yrs.	Bad	Ahijah
2.	Abijah	913–911	3 yrs.	Bad						
3.	Asa	911–870	41 yrs.	Good		2. Nadab	910–909	2 yrs.	Bad	
						3. Baasha	909–886	24 yrs.	Bad	
						4. Elah	886–885	2 yrs.	Bad	
						5. Zimri	885	7	Bad	

4.	Jehoshaphat	870 – 848 *	25 yrs.	Good	
5.	Jehoram	848 – 841 *	8 yrs.	Bad	
6.	Ahaziah	841	1 yrs.	Bad	
7.	Athaliah	841 – 835	6 yrs.	Bad	
8.	Joash	835 – 796	40 yrs.	Good	Joel
9.	Amaziah	796 – 767	29 yrs.	Good	
10.	Azariah (or Uzziah)	767 – 740 *	52 yrs.	Good	Isaiah
11.	Jotham	740 – 732 *	16 yrs.	Good	Micah
12	Ahaz	732	16	Bad	

			days		
6.	Omri	885 – 874 *	12 yrs.	Bad	
7.	Ahab	874 – 853	22 yrs.	Bad	Elijah, Micaiah
8.	Ahaziah	853 – 852	2 yrs.	Bad	
9.	Joram	852 – 841	12 yrs.	Bad	Elisha
10.	Jehu	841 – 814	28 yrs.	Bad	
11.	Jehoahaz	814 – 798	17 yrs.	Bad	
12.	Jehoash	798 – 782	16 yrs.	Bad	
13.	Jeroboam II	782 – 753 *	41 yrs.	Bad	Jonah, Amos, Hosea
14.	Zechariah	753 – 752	6 mo.	Bad	
15.	Shallum	752	1 mo.	Bad	
16.	Menahem	752 – 742	10 yrs.	Bad	
17.	Pekahiah	742 – 740	2 yrs.	Bad	
18.	Pekah	740 – 732 *	20 yrs.	Bad	
19	Hoshea	732	9	Bad	

* Co-regency

.		– 716	yrs.		
13.	Hezekiah	716 – 687	29 yrs.	Good	
14.	Manasseh	687 – 642*	55 yrs.	Bad	Nahum
15.	Amon	642 – 640	2 yrs.	Bad	
16.	Josiah	640 – 608	31 yrs.	Good	Habakkuk, Zephaniah, Jeremiah
17.	Jehoahaz	608	3 mo.	Bad	
18.	Jehoiakim	608 – 597	11 yrs.	Bad	
19.	Jehoiachin	597	3 mo.	Bad	
20.	Zedekiah	597 – 586	11 yrs.	Bad	

(Destruction of Jerusalem and captivity of Judah)

.	– 721	yrs.	

(Capture of Samaria and captivity of Israel)